

- ・今周囲のボランティアが気をつけてほしいこと

外部からやってきたボランティアは元気すぎるのであれも、これもやろうという風になってしまう。たとえば、避難者の名簿ができていないことを「まだ、作ってないんですか？」と言外に非難してしまう。被災した教員は体がぐたくたになっているので力仕事や掃除、片付けなどを黙ってやってほしい。判断することがしんどくなっているので、「やっていいですか？ どうしますか？」という風には聞かないでほしい。後で見てわかるように片づけてくれればそれで十分。

- ・必要だったこと

ゆっくりしたり、ボーっとする時間。世間ははやく復興！とかはやく学校再開！と言っていたがそれにはついていけなかった。落ち着ける空間があればよかった。元気がない人が、やってみよう。授業をもうできるだろうと思えるだけの支援がほしい。そのためには、授業ができるだけの環境を整える手伝いをしてほしい。

- ・教師や被災者同士で集まることについて

半年や一年後といった時間が必要なのではないか。個別の体験をしていると感じているので、時間が経過するなかで同じような経験をしている人がいるという情報があり話をしたこともあった。

(今回のようにほとんどの方が、何らかの身内の人を亡くしているような状況とは異なるかもしれませんが、阪神淡路のときは遺族であることは少数である感覚でした。)
その際には、ピアサポートだけでなく多様なケアの情報を提示し選べるようにしたほうが自分に合ったものが探せるのでありがたい。(夫との会話がとても役に立った。いろいろと二人で頻りに長い間話していた。)

- ・今周囲の人にできること

一緒に作業をしていたら無理をしている、しすぎている人が見てわかると思うのでその人にひと時の休息を促してほしい。

一緒に外に出るとか、休憩してはどうですかと伝えるなど。

- ・ほか

被災者への情報の中に、逃げ方の情報を書いてほしい。

災害の話や、自分が聞いていたくないこと、元気すぎる活動などに対して自覚的に避け、逃げることも大事であることを伝えてほしい。

早く学校、授業を再開することを重視するあまりほかの人が代わりに授業をすることは絶対にあってはならない。自分の役割を奪わないでほしい。